

2016年8月29日

株式会社エコクリーン江別  
代表取締役 上妻政敏 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会  
委員長 押谷 一



## 評 価 報 告 書

江別市の廃棄物処理の中核を担う貴社の事業運営に対し江別市民を代表して感謝申し上げます。

さて、去る7月14日に別紙の5名の委員が環境クリーンセンター等運営事業評価委員会委員として委嘱を受け、第9回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催いたしました。

委員会では、貴職ならびに貴社担当者より平成27(2015)年度の事業内容について説明を受け、それをもとに評価委員全員で貴社の事業について協議を行い、総合的に評価した結果、平成27年度における貴社の運営事業については、全員一致で下記の通り評価することといたしましたので、ご報告いたします。

環境クリーンセンターは、平成14(2002)年11月の竣工以来、13年目を迎えようとしているなか、貴社は江別市より長期包括的運営管理の委託を受けてから9年目に入りました。この間、重大な事故やトラブルは発生していません。とりわけ、貴社による運転管理においては特段の問題も生じていません。

しかしながら、経年的な劣化が懸念されることから、運転管理においては、従来にも増して慎重な対応が求められます。とくに、環境クリーンセンターは、市民の貴重な税金によって建設され、運転されている重要な財産であることを踏まえ、今後とも慎重かつ適正に運転・管理していただくようお願いいたします。

2015年度においては、コンベアの破損による停止、ごみピット内の「ぼや」が発生した以外には、施設や機器が損傷し、運転が大幅に休止するような重大な事故や、作業員の労災事故は、発生していないとのことですが、二系統ある処理システムのいずれかが何らかのトラブルによって稼働できなくなれば、市の廃棄物処理に甚大な影響が発生することになります。日頃から点検・整備に十分に取り組み、運転管理には十分に気を付けるように強く求めます。

貴社の事業は、株式会社としての組織であるとはいえ利益の追求だけではなく、社会的な責任と公益性をもつ事業であることを貴職はじめ従業員一同ならびに関係会社も含めて十分に認識し、健全な経営はもちろんのこと、安定した運転管理をはじめ環境面においても安心安全に十分に配慮した事業展開を図るよう要望いたします。

### 記

評価結果：平成27(2015)年度の環境クリーンセンター等運営事業について、次の事項について説明を受け、評価を行いました。すべての事項において特段の問題はなく、総合的に適正であると評価します。

- 評価事項
1. 運転・維持管理について
  2. 環境保全について
  3. 事業経営について
  4. 環境整備および地域貢献について

(別紙)

## 環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

### 委員等名簿

(敬称略)

	氏名	団体等
委員長	押谷 一	酪農学園大学
副委員長	星 優子	日本リサイクルネットワーク・えべつ
委員	大澤 由美子	江別消費者協会
委員	池田 太郎	八幡自治会
委員	石崎 昭仁	江別建設業協会
オブザーバー	塚田 俊美	三井造船(株)
オブザーバー	寺内 辰雄	クボタ環境サービス(株)

## I. 評価事項に対する説明の概要

### 1. 運転・維持管理について

江別市の要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織について平成27年7月1日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」にもとづいて説明を受けた。

それによれば、上妻政敏代表取締役以下、廃棄物処理施設の運転に関わる技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって勤務時間帯は異なるが、運転管理に十分な体制をとられていること等を確認した。

#### (1) ごみ搬入量

平成27年度は、昨年度に比べ、ごみ搬入量は、可燃ごみが2%減、不燃・粗大ごみが3.6%減となり、直接埋め立てごみ量は、55.2%の大幅な減少となっている。これは、市内の火災発生が少なかったことによるものであるとの説明を受けた。なお、平成17年度から市民による直接搬入量は増加傾向にあるが、平成27年度は前年比8.9%増となっているとの説明があった。

#### (2) 焼却施設の運転状況

##### ① ピット受入量

前年比で可燃ごみは、2%減、ピット受入総量は、1.7%の減となっているが、最終処分場の排水処理施設からの脱水ケーキが22.6%増加している。これは排水の貯留量が少なくなり、底の沈殿物の多い排水の処理が必要になったことによるものであるとの説明を受けた。

##### ② 可燃ごみ処理

可燃ごみの処理量については、前年比で0.3%の微減となっていることの説明を受けた。

##### ③ 資源化物量、最終処分量

資源化物総量については、前年比で2.4%減、最終処分量はおよそ6.5%減となっていることの説明を受けた。

#### (3) 破碎施設の運転状況

##### ① 不燃・粗大ごみ処理

処理量は、前年比で2.2%の減少となったとの説明を受けた。稼働日数は減少しているが、1日当たりの処理量は前年とほぼ同じ15.7トン/日で大きな変化はないとのことであった。

##### ② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で13.6%減となっているが、不燃・粗大ごみとして搬入されたごみのおよそ73.7%程度は破碎処理後、可燃ごみピットに送られ焼却処理されているとの説明を受けた。

#### (4) 新最終処分場（現在、運用中の処分場）

##### ① 埋立処分量

前年度に比べて容積ベースで29.4%減少しているが、これは覆土を実施しなかったことによるものであるが、飛散対策上は問題ないとのことであった。なお、直接搬入一般ごみは、40.5%

減となっているとの説明があった。

## ②浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を実施していることについて説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示す BOD（生物学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）、Ca<sup>++</sup>（カルシウム）などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

## （5）旧最終処分場

浸出水は、適正に処理され、放流水の水質は、すべて基準値内であることの説明があった。

以上のとおり、搬入される可燃ごみ、不燃・粗大ごみの搬入、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分（埋立）量、ならびに浸出水の処理について、データを参照し説明を受け、特段の問題がないことを確認した。

なお、運転日報、データなどについては、適正に記入され、保管されていることを原本によって確認した。

## 2. 不具合の発生

平成 27 年度において発生した 2 件の不具合について説明があった。

- ① 2 系のスラグ排出コンベアのレールの溶接が剥がれたことによってレールが浮き上がり、スクレーパー（掻き上げ板）が接触し、過負荷によってコンベアの運転が停止した事案である。通常、レール部分は水中にあるため目視することはできず、中央制御室のコンベアの運転に関する数値が異常値を示したことによって発見されたとの説明があった。オブザーバーの塚田氏にこの原因について説明を求めたところ、経年劣化によるもので、定期点検時には慎重な点検が必要であるが、抜本的な防止策は難しいとの説明があった。また、前述のように事故のあった場所は水中にあるが、補修のために水抜き、乾燥などが必要となるが、今回の事案では 2 日間の運転停止で修理を終えたことは、速やかな対応によるものであるとの説明があった。
- ② 不燃・粗大施設から搬送される可燃物落ち口付近の可燃ごみピット内において「ぼや」が発生した事案である。クレーン操作中の作業員が目視によって炎を発見し、ただちに床洗浄水、再利用水による初期消火を行うとともに消防に通報した。初期消火では、可燃物が堆積しているため完全に消火することはできなかったが消防隊による消火剤散布によって鎮火を確認したとのことである。設備、機器などへの延焼もなく、速やかに通常通りの運転の再開となった。原因は不明であるが、何らかの発火物が可燃ごみに引火したようであるとの説明があった。なお、水だけでは消火できなかったことから消防隊の使用した消火剤と同様の薬剤を装備し、消防設備の強化をしたとのことである。塚田氏に、他の施設においてこのような事案は発生しているのかを確認したところ、稀には発生することがある。可燃物が堆積していることから完全に防ぐことはできない、原因を特定することは難しいが市民の分別の徹底が必要であるとの助言があった。このことについては、市の関係部局に対して市民に対する一層の啓発が必要であるとの申し入れを行ったとのことである。

### 3. 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている要件について、定期分析計画、分析結果を示しながらすべて問題なく事業を実施していることの説明があった。

本施設においては、国の基準を遵守することはもとより、それより厳しい基準値を定めた江別市（役所）が独自に環境基準値を設定しているものもあるが、すべての項目において基準値をクリアーしていることの説明があった。

ダイオキシン類測定結果では、大気、土壌、水質、環境クリーンセンターからの排ガスの測定結果はいずれも基準値を大きく下回っており問題はないことを確認した。

なかでも、場外の一部の土壌のダイオキシン濃度が昨年に比べて上昇しているが、大気中のダイオキシンが経年蓄積しているものであり、国の定めた基準を大幅に下回っていることから、問題がないとの説明を受けた。

作業環境においては、一部の区域で粉じん濃度が高い場所があるほか、破碎施設の選別室などの騒音レベルが高い。抜本的な改善は難しいと思われるが、作業員に対しては、防塵マスク、耳栓などを使用するよう指導している旨の説明があった。

旧最終処分場の発生ガスの測定結果によれば、発生ガス濃度は低くなってきており収束あるいは収束傾向にあるとの説明があったが、オブザーバーの寺内氏に助言を求めたところ、埋め立て完了後の状況をみれば間違いなく収束傾向にあるが、何年で完全に収束するのかを予測することは難しいとの説明があった。

### 4. 事業経営について

収支決算など経営にかかわることについては、取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり本委員会では、江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととした。

本年は6月24日に株主総会が行われ、事業報告ならびに第9期決算を報告し、承認されている旨の説明があった。それによれば、当期の純利益は、18,126千円で、前期に較べて、14,302千円の増となっている。これは、電力料金の安定、灯油価格が安価で推移したこと、新たに余剰電力を売電する事業を開始したことによって収益が確保できたとのことである。繰越利益剰余金は101,636千円となっていることの説明を受けた。

株主への配当等は、江別市との包括協定が満了した時点まで行われないと説明があった。

さらに貸借対照表による資産などの説明、支出状況、各種保険の加入状況などについて説明を受けた。これらについては、昨年度と変更はなく特段の問題はみられない。

なお、費用のうち工事請負費等、江別市内の業者に支払われた分（市内調達率）は、全体で18.4%となっている旨の説明があったが、委員より可能な限り市内調達率を上げるよう今後とも引き続いて努力するようとの指摘があった。これに対して、特殊業務や資材の調達、大量の灯油の発注もあり難しい面もあるが努力していきたいとの回答があった。

### 5. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでいる旨の説明を受けた。子育て支援事業への協賛支援として子育て世帯に指定ごみ袋の提供を行うとともに、周辺環境の整備のために、周辺の清掃活動に積極的に参加したほか、緑化のため植樹した施設周辺樹木の維

持管理に努めている旨の説明を受けた。また、平成 27 年 10 月 10 日（土）には、親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」を開催し、27 組 78 名の参加があり、施設見学、工作、昼食交流会などのイベントを通じたごみ問題への啓発などにも取り組んでいることの説明を受けた。また、社員による施設周辺の環境美化ウォーク（ごみ拾い）などの活動も報告された。

平成 27 年度の環境クリーンセンターの見学は、昨年度に較べて行政視察が減少したが市内の小中学生をはじめ 763 名であった旨の説明があった。

## 6. その他

以上のことと平成 34 年 3 月までの長期包括的運営管理受託事業の実施にあたって経営面との整合の図れる事業推進に取り組んでいる旨の説明を受け、適宜、質疑応答を行った。

最後に三井造船株式会社、クボタ環境サービス株式会社より評価委員会に陪席いただいたオブザーバーから総括的な意見をいただいた。それによれば本設備は、今のところ運転上の問題はないが、運用開始後、年数が経過していることから、引き続き、点検・整備に万全の注意を払えば、これまでと同様に問題のない運転が可能であるとの説明があった。

続いて上妻代表取締役以下の会社関係者およびオブザーバー、傍聴者の退席をもとめ、委員会メンバーで、評価について意見交換を行い、次のような総括に至った。

## II. 総括

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、平成 27 年度事業の評価のため、平成 28 年 7 月 14 日に評価委員会を開催し、株式会社エコクリーン江別より事業内容の説明を受け、それに対する質疑応答を行った。

委員に対しては、事前に測定データなどを記した関係資料が送付され、委員会の席においては、上妻政敏代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。さらに委員会においては、三井造船株式会社ならびにクボタ環境サービス株式会社の担当者からオブザーバーとして同席いただき、適宜、技術的な内容について補足の説明を受けた。本施設が稼動開始後、12 年を経過しているなかでの経年劣化に対する課題等や設備の保全の現状についてオブザーバーからも意見を述べていただいた。

評価事項の説明および質疑応答を終えた後、委員全員による評価を行い、さらに施設内を視察し、設備の状況を確認した結果、全員一致により(株)エコクリーン江別の平成 27 年度の事業については、特段の問題はないと評価するとの結論に至った。

以上